

第22回参院選・組織内候補に擁立

難波 奨二 書記長



「絆」を大切に
する社会を

—簡単にプロフィールをお願いします。

私は1959年、岡山県美星町（現在、井原市美星町）に生まれました。町の名前のおり星がきれいで自然に囲まれた山紫水明の地で育ち、郵便局には、高校卒業後の1977年に岡山県の玉島郵便局に外務職員として入局しました。当時の給与が一ヶ月約6万円、アパート独り暮らしでしたの決して楽な生活ではありませんでしたが、充実した毎日を送っていました。外務の仕事でした

ので、冬のみぞれ降る日の手の冷たさ、夏の日汗だくのヘルメットの感触は今でも忘れられません。

私が労働組合に加入したのは、働き始めてから2年経った頃だったと思います。当時は祝日休配がありませんでしたので成人式に出席させてもらえず、そのことを何か不満に感じ、自ら組合に加入したと記憶しています。加入後は多くの青年部員と夢を語り合い、楽しい運動を企画してきました。当時の仲間、いまでも私の良き理解者です。

33歳の時に岡山地区本部の専従役員となり、執行委員を2年、書記長を4年務め、1998年39歳の時に中央本部の役員となりました。本部では企画部長を経て2004年に書記長となり、そして2008年10月からは現在の日本郵政グループ労働組合の書記長を務めています。

家族は私を含めて4人。東京では子供2人と生活していますので、掃除・洗濯・料理などの家事は私が中心にやっています。必要に迫られてということもありますが、料理をするのは結構好きですね。



—2月18・19日に開催された第3回中央委員会で、第22回参議院議員選挙（2010年7月予定）に組織内候補として擁立されることが決まりましたが、政治への抱負をお聞かせください。

JP労組の初めての組織内候補ですので、大変な重責を感じています。まさに、JP労組の命運のかかった戦いとなることに間違いありません。必ず勝利したいと思っています。郵政の代表として、政治に翻弄され続けている現状の回避と民分化後における郵政事業のあるべき姿に向け、政治の場でそれを形作る

ことが何よりも私の第一義的な仕事だと思っていますので、全力投球で臨みたいと思います。国政的には、少子高齢化が進み税収が少なくなっている

中で社会福祉のあり方、均衡ある国土の発展に向けて教育・医療・福祉・雇用という日本が直面している問題に取り組むこと、これも大きな仕事となると思います。また、労働者の

生活を守るためにも今以上のセーフティネットを構築することが一層重要となってきますし、社会的な格差解消もテーマの1つです

私は、人と人との「絆」を大切に、また、「絆」が価値観として尊重される社会の実現に努めていきたいと思っています。

—JP労組が真正面から政治に取り組む必要性については私たちの職場、雇用を守るためにも避けて通れません。あらためて労働組合として取り組む重要性についてお聞かせください。

郵政事業は2007年10月に公社から民間企業となりましたが、民営化後も、完全には政治と関わりを断ち切ることはできないと考えています。それは、

我々郵政グループの生い立ちと深く関係しています。郵政民営化論議の渦巻いていた当時、大多数の国民が正しく郵政民営化を理解していなかったにも拘わらず、小泉マジックにより、自民党を勝たせてしまったと判断しています。確かに、当時の国民意識の中には国家

公務員への批判があったかもしれません。しかし、だから民営化を望んでいたというわけではありませんでした。それは全く別の問題だったのです。そして、何よりも指摘したいのは、参議院で否決されたに

も拘わらず、衆議院を解散するという、憲政の常軌を逸する手法を取ったことです。「政治の場」で決した事は「政治の場」で議論し続けるしかありません。こういった経緯もあることから、民間企業となっても政治とは切り離せないと考えているわけです。

—組合員の働きがい、生きがい、国民の利便性向上に向けてこれからの日本郵政グループの事業展望、国民の共有財産とも言える郵便局ネットワークの維持・発展についてどうあるべきとお考えですか。

郵便局は日本の文化だという方もお

られますが、まさにその通りです。その文化を民営化後、どのように継承していくのが非常に重要です。郵便局の役割は民営化後も決して変わることはありません。これからも変わらず国民生活のインフラとして全国津々浦々にサービスを提供し、より質の高いサー



ビスで国民の福祉の向上に貢献することが求められています。そのサービスを維持するためにも、健全な形で企業の発展を追求すると同時に三事業の一体的経営を堅持しなければ24,500局の郵便局のネ

ットワーク維持はありえません。私の役割は、三事業の一体的な経営が可能な制度設計を国政でどう形作るかという所にあると思っています。また、持株会社や金融2社の株式上場には慎重に対応しなければなりません。私は上場によりどのような企業活動を各社がやるのが大切であり、上場によってより強固な経営基盤を作る、その視点で上場すべきだと思っています。郵便局ネットワークと外務員のネットワークは私たちの事業にとって大きな財産です。組合員のみなさんはその事に自信を持って日々の仕事に頑張ってほしいと思います。

—自己診断をしたら、ご自分の長所・短所はどういった点でしょうか

自分で言うのもなんですが、昔は「瞬間湯沸かし器」とよく言われました。直情型人間ですね。しかし、今はずいぶんと性格が丸くなったと思いますよ。これまでの役職柄、誤解を受けやすい立場にありましたので、中には私に対してあまり良い感情を持っていない方もおられると思います。しかし、私自身は人が大好きな人間ですし、人から裏切られることはあっても、人を裏切ることにはしません。そして、先輩を大事にする、昔ながらの「義理と人情」を大切にしている人間だと思っています。

また、常にチャレンジ精神を忘れないようにしています。労働運動の新しい領域へのチャレンジ、新しい運動の創造に向けたチャレンジ、今もアイデアはたくさん頭の中にあります。こういったことをやり残す形になってしまうのは残念な気もしますが、しかし、今度はやり残したことを国政の場で実現してみたいと思っています。

—最後に組合員、家族、OB、関係者の皆さんにひと言おねがいます

私一人の力は微々たるもので、皆さ

んの力を借りなければとても選挙戦に勝利することはできません。ぜひご支援を賜りたいと思っています。そして、組合員の皆さんの夢を、ぜひ私に託してください。皆さんお一人お一人の想いを受け止め、その想いを大切にしたいと思っています。ぜひともご支援をよろしくお願い申し上げます。

中央委員会での決意表明

JP 労組、そして、郵政事業、組合員と家族のために、全身全霊を懸けて、戦いに挑みます。



なんば しょうじ
1959年 岡山県に生まれる
1977年 玉島郵便局入局(岡山県)
2004年 日本郵政公社労働組合 書記長
2007年 日本郵政グループ労働組合 書記長